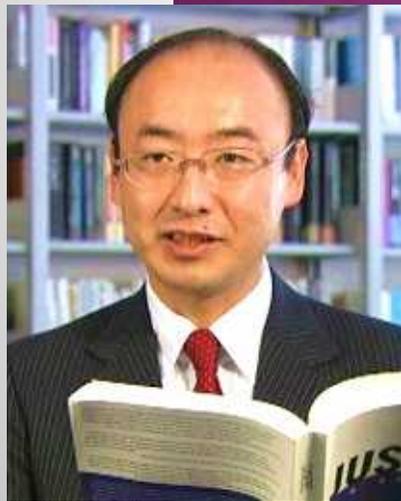


慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科公開講座

白熱対談「公共哲学×SDM」 東西世界観の統合

2013年8月4日 13時～16時

慶應義塾大学三田キャンパス第一校舎109教室にて



小林 正弥

千葉大学大学院
人文社会科学研究科



前野 隆司

慶應義塾大学
SDM研究科

東西哲学の統合化： 古典と近代

小林正弥

序：哲学と政治哲学



政治哲学：正義とは？

- ◎ 正義：福利型（結果の幸福）、自由型（義務・権利論） 美德型（目的としての善）
- ◎ 1．福利型：利己主義、功利主義
- ◎ 2．自由型： リバタリアニズム（市場原理主義、自由原理主義） 自己所有権、自己責任
- ◎ リベラリズム 正義の2原理（基本的自由・格差原理）、福祉国家
- ◎ 3．美德型：コミュニタリアニズム 善き生+ 共通性 = 共通善

哲学なき政治哲学

- ◎ リベラリズム：後期ロールズ
- ◎ 「形而上学なき政治哲学」「哲学なき政治哲学」
- ◎ 価値観・世界観の多様性 合意できるのは、
権利のみ 権利 = 正義
- ◎ こうなると、哲学は要らない。

- ◎ コミュニタリアニズム：自己論、美德 **哲学**
の必要性

原子論 対 全体論的視点

- ◎ 問題をシステムとして俯瞰的にとらえ全体として整合性のある解をデザインする方法 (=システムデザイン・マネジメント学)
- ◎ リベラリズム・リバタリアニズム：個人、原子論
- ◎ 全体論 普遍的・俯瞰的全体性
- ◎ 全体論的自己・視点
- ◎ 公共的公 公共的設計 (public management) 公共政策

1. 西洋近代の原子論を 超えて：無我と政治哲学



人類史：コミュニティの進展

- ◎ 原始時代：家族・部族（全体論的な未分化・融合）
- ◎ 古代：王国、帝国（階層性—垂直軸の分化）
- ◎ 枢軸時代：東西で同時多発的に精神性が出現
- ◎ 中世：封建制（宗教性—超越軸の分化）
- ◎ 近代：国民国家 個人性（原子論） 民主主義、市場経済（水平軸の分化）
- ◎ これからの世界：グローバル世界 ネットワーク（関係論・総合化論）

近代的理論：原子論（・分多論）

- ◎ 要素還元主義：すべてを最小の要素（原子）に還元して、その合計として考える。
- ◎ 西洋近代 物理学・化学 デカルトーニュートンの世界観 原子論 西洋近代主義・啓蒙主義
- ◎ 個人を起点とする、社会契約論、功利主義
- ◎ 自由、選択：リベラリズム、リバタリアニズム（自由原理主義）
- ◎ 全ての人に分かれていて多数、差異 ポスト・モダン哲学

近代の主体：原子論的理論

- ◎ デカルト：「我思う、ゆえに我あり」
- ◎ 主客分化：主体－客体（対象）
- ◎ 主体性・意識・魂と肉体：心身関係論（二元論）
物理主義（前野説）
- ◎ カント：「ものの自体」についての不可知論
実践的な理性、自律性
- ◎ ロールズ：原子論的リベラリズム 別個性

ロールズの功利主義批判

- ◎ 全員の幸福の合計の最大化 個人の犠牲を招く危険性 個人の権利の重要性
- ◎ 原子論的リベラリズム：「無知のベール」のもと、合理的利害の追求、他者への無関心
- ◎ 近代的理論：権利基底的理论へ

P・ラスレットとの「対決」

- ◎ ケンブリッジ時代：「自己と将来世代」国際会議 英語出版
- ◎ 政治哲学の「死滅」？
- ◎ J・ロック研究：ジョン・ダンへ
- ◎ 世代間問題
- ◎ 3世代間契約
- ◎ 西洋的合理主義 東洋的全体論

- ◎ Tae-Chang Kim and Ross Harrison, eds., *Self and Future Generations : an intercultural conversation*, White Horse Press, 1999

将来世代問題

- ◎ 非同一性問題：14歳の少女が子ども（A）を産む場合と、その数年後に子ども（B）を産む場合。生まれてくる子どもAはBとは別の存在だから、AにとってはAが生まれてこない方がいいとは言えない。これでいいだろうか？
- ◎ 様々な難問、矛盾
- ◎ 革命的なX理論の探求 失敗

デレク・パーフィット：『理由と人格』

- ◎ 功利主義 非功利主義的帰結主義（準功利主義） 非人格的原理、恩恵原理（便益－苦、ただし権利は満たすという点で多元的）
- ◎ 自己利益説（快樂説、功利主義）批判 = 原子論批判
- ◎ ロールズ批判：還元主義（束理論） 人格の同一性（アイデンティティ）－R関係（心理的継続性・関係性の見解）の存在へと還元
- ◎ リベラリズムなどの人格の別個性・独立性批判 = 非原子論
- ◎ 無我：仏教と似ている。前野説との類似性。

パーフィットとの議論

- ◎ 還元主義 （時間的）原子論の極 = 全体論？
- ◎ 全体論的自己による問題の革命的解決
- ◎ 多層的全体論（細胞から宇宙まで）
- ◎ 二重公理 対理法的・総合論的構成：原子論的自己（表層）+全体論的自己（深層）= 二元論的・総合論的自己
- ◎ 無我との類似性

- ◎ 「全体論的自己と将来世代——非同一性問題に対する革命的解決」付録「ヒンズー教と仏教における自己/アイデンティティ」

仏教解釈：無我と全体論

- ◎ ヒンズー教：存在論的な全体論的自己（梵我一如、真我、大我）
- ◎ 初期仏教：無我 非存在論的解釈（規範論的な実践的指針） 全体論的自己とは矛盾せず。時間的な因果論（原因－結果）
- ◎ 上座部・大乘仏教：存在論的な原子論的自己
存在論的な無我、存在論的な縁起（相互依存）－全体論的
- ◎ 龍樹 主客対立を超えた空（言語による認識 / 究極的真理） = 存在論的な全体論
- ◎ 唯識：認識論的・存在論的な全体論的自己

政治哲学の統合化

- ◎ 政治哲学相互の対立・背反関係 統合化
- ◎ リベラル・コミュニタリアニズム = リベラリズム(自由、個) + コミュニタリアニズム(善、共)
- ◎ 帰結主義的コミュニタリアニズム = 功利主義(量、良の合計) + コミュニタリアニズム(質、美德) いずれも目的論
- ◎ パーフィットの多元論的な準功利主義 統合化論

古典的理論：全体論（・全一論）

- ◎ 全体には、部分（要素）の合計以上のものが存在すると想定。
- ◎ 西洋古典的　ギリシャ哲学（プラトン、アリストテレス）　コミュニティ（ポリス）における正義　全体論的
- ◎ 東洋思想：ヒンズー教（梵我一如）、道教（道）などに全体論的発想
- ◎ 生物学　生命論、有機体論
- ◎ 近代：システム論（社会システム、政治システムなど）　自己組織化

2つの統合化問題

- ◎ 東西の古典：無我論と全体論との統合化は可能か？
- ◎ 近代と古典：原子論と全体論の統合化は可能か？

Ⅱ. 東西古典哲学の統合化



東西哲学の相違

- ◎ **近代**西洋哲学：主体、存在、神、論理、理性、自律、対話
- ◎ ソクラテス・プラトン・アリストテレス　デカルト・カント・ヘーゲル

- ◎ 東洋哲学：無我、空、直観、悟り、縁起（相互依存）、全一、道、瞑想
- ◎ 仏陀、ヨーギ、孔子、老子・荘子など

西洋における2つの古典的哲学

- ◎ サンドル：倫理的・精神的正義 = 美德型正義
ギリシャの古典的哲学へ
- ◎ アリストテレス型：目的論的正義論（コミュニタリアニズム）、形式論理
- ◎ プラトン型：イデア論——超越的世界：实在
理念的正義論（コミュニタリアニズム）、対
話法
- ◎ 双方とも、美德・善に関わる。

古典的西洋哲学は東洋哲学と両立しないか？

- ◎ ソクラテス：無知の智 謙虚さ、理性の限界
(カント) 両立
- ◎ プラトン：超越的なイデア論 非両立？
- ◎ アリストテレス：目的論
- ◎ 形式論理学 近代西洋的学問 非両立

ソクラテスープラトン

- ◎ 問答法・対話法：理性的だから非両立？
- ◎ ソクラテス：無知の智 究極の真理（空・無としても）については無知だから探求 = 両立
- ◎ プラトン：解釈によって相違。
- ◎ 通説：主知主義、合理的・理性的哲学の祖
西洋形而上学 = 非両立
- ◎ 果たして、両立しないか？

プラトン解釈

- ◎ イデア論：線分の比喻
- ◎ 通常の学問（推論）：演繹的論理 公理的方法
- ◎ イデアへと向かう問答法：対話により、美そのもの、善そのものの始源に遡る
- ◎ 論理を超えた世界を直観

プラトンのイデア論

- プラトンの段階：対話（問答法）によって魂の向き換えが生じる 「真実在 = イデアの世界」の直観
- イデアの世界とは？： 善そのもの、美そのもの...永遠で、不生不滅の實在
- 「イデアは超越界にあって、生成も消滅もせず、離在している」「イデアは原因そのものである。一者が存在しなければ、すべてのものは存在しない」

仏教との関係

- ◎ 仏教：悟り
- ◎ 般若經典：「諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減」
- ◎ 類似性と相違点



プラトンと仏教

- ◎ プラトン：対話により、現象世界の相対化：
「論理」により、論理を超える道
- ◎ 直観により、現象世界を超えた世界 美德
- ◎ 肯定的な道

- ◎ 仏教：瞑想により、論理を超え、現象世界を
超えて、無・空へ
- ◎ 修行（戒律） 悟りにより、現象世界を超え
た法を認識
- ◎ 否定的な道

現象的世界に対する2つの道

枢軸時代（ヤスパース）：現象的世界と超越的世界の二元論　：紀元前後、ユダヤ・キリスト教、ギリシャ哲学、仏教、儒教、イスラームなど

- ◎ 肯定的方法（現象・自我を超える）：アイデア、神　西洋的（多い）
- ◎ 否定的方法（現象・自我を否定する）：無、空　東洋的（多い）

西洋哲学の「ニヒリズム」

- ◎ ラウシュニング ニヒリズム革命 = ナチス
- ◎ 哲学的に、何物も存在しない。
- ◎ 道徳的に、善悪の区別を認めない。
- ◎ 生存は本質的に邪悪で非現実的。

- ◎ ニーチェ
- ◎ 最高価値が無価値に
- ◎ 能動的ニヒリズム：暴力的、力への意思
- ◎ 受動的ニヒリズム：疲れた、仏教（？）

東洋哲学はニヒリズムか？

- ◎ 現象世界：規範論的な無・空 原子論的な自我主義（利己主義）の否定
- ◎ 存在論的な無・空
- ◎ 超越的世界：悟り、道 至福（幸福）
- ◎ 道徳的・倫理的：戒律（善・美德）

- ◎ 否定的道：東洋哲学の「ニヒリズム」は、現象世界・自我の否定を通じて幸福へ。
- ◎ 原子論的自我の否定により幸福に至ることは、西洋古典哲学と同じ。だから、「ニヒリズム」の解釈によっては両立する。

東西哲学の類似点：対話・瞑想

- ◎ 目的：般若の智慧 / 愛知
- ◎ 対話：孔子の問答 / ソクラテスの対話法
- ◎ 瞑想：仏教の瞑想 涅槃 / アリストテレスの「観照」= 最高の幸福、神秘主義 空 = 至福
- ◎ 論理：仏教哲学 / 弁証法
- ◎ 場所・空：仏教・西田哲学の「場所」 / プラトンのイデア論

仏教における善と正

- ◎ サンデルのコミュニタリアニズム：善と正義の相関性
- ◎ 10善戒：善き生
- ◎ 八正道：正しい行為（特に、正しい仕事や生活、思念）は正義と関連
- ◎ 10善戒と8正道：「善き生」と「正しさ」とが関連

仏教における善：10善戒

- ◎ 不殺生(ふせっしょう)：故意に生き物を殺しません。
- ◎ 不偷盜(ふちゅうとう)：与えられていないものを取りません。
- ◎ 不邪淫(ふじゃいん)：みだらな性的関係を持ちません。
- ◎ 不妄語(ふもうご)：嘘をつきません。
- ◎ 不綺語(ふきご)：無駄な噂話をしません。
- ◎ 不悪口(ふあくく)：乱暴な言葉を使いません。
- ◎ 不兩舌(ふりょうぜつ)：他人を仲違いさせるような言葉をいいません。
- ◎ 不慳貪(ふけんどん)：異常な欲を持ちません。
- ◎ 不瞋恚(ふしんに)：異常な怒りを持ちません。
- ◎ 不邪見(ふじゃけん)：(因果、業報、輪廻等を否定する)間違った見解を持ちません

仏教における正：八正道

- ◎ 正見：正しい見方、認識
- ◎ 正思惟：正しい考え方、思い
- ◎ 正語：正しい言葉
- ◎ 正業：正しい仕事
- ◎ 正命：正しい生活、生き方
- ◎ 正精進：正しい努力
- ◎ 正念：正しい思念
- ◎ 正定：正しい瞑想

形式論理と対理法

- ◎ 論理：形式論理（アリストテレス）、分ける
発想。原子論的
- ◎ 弁証法（プラトン　ヘーゲル）　対立　まとめる　統合的　三元論的
- ◎ 論理+感性　弁証法・対理法（超論理 = 超感性
= 直観）

哲学的東西統合の「論理」

- ◎ 西洋哲学：「アリストテレス 近代哲学」の形式論理学を前提にすると、統合不能
- ◎ ソクラテス・プラトンの対話法 = 弁証法だと、統合可能。矛盾を超えた統合の論理だから。
。
- ◎ 有・無 成 （ヘーゲル）
- ◎ 絶対無 = 絶対有？ （西田）
- ◎ 過去の罫を超えて、東西統合化を行うためには、対理法自体の発展が必要 新対理法へ

Ⅲ. 東西統合の罨：原子 論と全体論



西田哲学と田辺哲学

- ◎ 西欧哲学+禅体験 純粹経験
- ◎ 主客合一：主体と客体の弁証法的統合 場所
- ◎ 絶対無：絶対矛盾的自己同一

- ◎ 田辺元：種の哲学 類一種（国家、民族など）一個

失敗：弁証法的東西融合論

- ◎ ヘーゲル弁証法：家族（全体論） 市民社会（原子論・特殊の分裂） 国家（全体論・普遍への止揚） 戦前、国家主義に悪用
- ◎ 東西の弁証法的止揚
- ◎ 第2次世界大戦：東西融合論 京都学派 西田幾多郎（絶対無） 田辺元、和辻哲郎、四天王ら
- ◎ 田辺・和辻・四天王ら：個人性と社会性の二重性 国家への献身、個人の尊重の消失
- ◎ かくして、大東亞戦争を正当化。

東西融合への批判

- ◎ 個人を軽視して国家への献身に収斂 戦争責任問題 戦後、京都学派の影響力は衰退、丸山眞男らの「西洋近代主義」が優位に。
- ◎ この結果、個の析出の重視 リベラル、「コミュニタリアニズム = 共同体主義」批判
- ◎ 参考：『コミュニタリアニズムのフロンティア』 「京都学派」

原子主義・全体主義批判

- ◎ 全体論が原子論無視 全体主義（ファシズム、スターリニズム）
- ◎ 原子論が全体論無視 原子主義（リバタリアニズム、ポスト・モダン派）
- ◎ だから、この双方の極を避けて、この二つを何らかの形で結合する必要

畏の回避：古典と近代の統合化

- ◎ 「古典的（東洋的）全体論 + 近代的（西洋的）原子論」の統合化
- ◎ コミュニティとともに、**個人**も尊重：リベラル・コミュニタリアニズム
- ◎ 国家（=公）と個人（=私）との媒介としての「公共」 公共善
- ◎ 理想：全体論的個人